



一般社団法人

- ◆遊ぶ・学ぶ・食べる
- ◆老壮若が出会い、
遊び・子育て・学習を支援。
- ◆近所に子ども食堂を！

すくすく通信 第11号
2022年5月20日発行
発行：一般社団法人すくすく広場
代表：丸山 綱男
事務局・発行所
〒347-0031 加須市南町 7-67 戸恒方
Email tozune@outlook.jp
HP; k-sukusuku-hiroba.org
郵便振替口座 00220-7- 138076

はじめに

理事長 丸山 綱男

前年度も残念なことに「コロナ対策にはじまりコロナ対策に終わる」一年でした。毎日のように感染拡大が報じられてきましたが、未来を見つめるためには“起きてしまった事実を目を閉じることなく”停めることなく、休むことなく、また退くことがないようにすくすく広場を進めてきました。

また、寄り添いに一番大切なこととは、「痛みを懸命に分かろうとすること」を基本的な姿勢と意識し続けました。その上で、年間の事業計画に対処してきました。今後も、お互いに行き詰まり困難に遭遇した時には、目の前の小さな課題を一つずつ取り上げて、相手が何を求めているかを考えて行動することに心掛けたいと思います。

すくすく広場を進める仲間にとって必要なことは「わかっている組織」ではなくて、「わかろうとする組織」であると考えます。

この一年間、すくすく広場に対してご支援・ご賛同いただきました地域の皆様、関係者の皆様、加須市当局、広場主催の行事にご参加いただいた皆様に、心より御礼を申し上げます。

新年度に向けて

すくすく広場は「自分が育つ場所」という側面と「自分の価値を提供して、新しい価値を創り出す場所」という両側面があることにも心に止めていきたいと考えます。

新型コロナウイルスの変異株が新たにしようとも、「疾風に勁草を知る」ではありませんが、苦難があってはじめて地域社会の中で何が強いのか、我々の組織の何が底力なのか認識していきたいと思ひます。

本年度も昨年の活動方針を踏まえて、以下を重点的に推進します。

- 1 「人は心を求めて集まる」ことを活動の出発点とします。
- 2 親同士の協働を促し、地域の子育て機能を高めます。
- 3 地域に住む多彩な人々との交流や共同体験を一層活発にします。(22年度総会にて)



↑21年11月、北川辺ライスパークにて

2022年度活動方針と計画の概略

1、すくすくのあそびひろば(あそび広場委員会)

開催の計画を6・10・11・2月の4回に増やしますが、コロナ感染防止の状況を確認しながら、野外での活動に重点を置くことや、参加者数を30名に絞るなど、安心・安全を第一に配慮しつつ、開催のタイミングを計っていきます。また、各家庭とはLINEの活用など、リモートでのつながりを模索するなどの試みも進めます。



2、小中高生勉強会(学習支援委員会)

状況によりませんが、基本、毎月4回、木曜日5時から7時半に3分割で開催します。食事提供は今しばらく見合わせます。「リモート学習と対面指導を

両立する学習支援」をテーマとした指導法をさらに研究します。大学生ボランティアの参画を推進しています。外国籍のご家庭や、不登校の子どもさんの支援にも力を注ぎ続けます。



3、研修会・講演会（研修委員会・広報委員会）

月1回のサロンでは、Zoomで公開しながら、皆さんが関心を持つテーマに沿って、身近な方やテーマに詳しい方を招き、3～40分のお話を聴くなど、研修委員会の企画で充実を図ります。2年越しに懸案の講演会は、5月29日に田坂興亜さんの「農薬が子どもの脳を侵す～食卓から農薬を減らそう！」を開催します。

4、委員会組織の改編

子育て家庭を支援するため、「**子ども・親の相談委員会**」と「**プチ・パントリー委員会**」をさらに充実させます。プチ・パントリーは4月、7月、9月、12月、1月、3月の6回実施する予定です。



また、「**子ども食堂支援委員会**」が、市内に増えつつある子ども食堂をノウハウ・資金・スタッフの面

から支援し、同時に各食堂の交流を図っていきます。この委員会は加須市内の子ども食堂とパントリーで構成する連絡会も担当します。

なお、北小浜みんなで子ども食堂（林実代表）と、光明寺おてら食堂（片山俊亮代表）は、今後も市内での子ども食堂を一層充実・発展させるために協力をしていきますが、本年度から会計面で自立して運営することになりました。

5、新年度予算

本年度はキューピー財団の20万円、赤い羽根さいたまの30万円が決定、加須市の30万円が予定されており、昨年比では減額となるものの、計画中的パントリー6回、あそび広場4回に必要な資金はほぼカバーできています。これから申請する支援補助金10～20万円程度を得られれば、高校生アルバイトの奨学金、Wifi利用料などの通信費、講演会講師謝礼等、活動をさらに充実させるための資金が用意できると考えています。

6、地域での連携

昨年度、加須市からは「地域市民活動支援補助金 一緒に取り組もう部門」に採用されて、力強く支えていただいたほか、子育て支援課と社協の働きかけ



で「**市民フードドライブ**」が発足・定着し、「加須市子育て応援団体連絡会」（6つの子ども食堂と4つのフードパントリー）も出来ました。すくすく広場はその中心的な役割も担いながら、顔の見える関係を大切にして、日常的に助け合っています。

また、「にほんごの会」「しずくの会」「愛泉寮」「光の子どもの家」などとの協力関係のほか、市の「すくすく子育て相談室」や市教委の「ぴあ（不登校生徒の支援）」などとも、具体的なケースに沿って相談し、協力し合える関係を築いて来ました。さらに、「埼玉県子ども食堂ネットワーク」の埼玉エリアでも、加須・羽生・行田・久喜・幸手の18の食堂さんとの交流にも声掛けの役割を果たしています。

今後さらに、ボランティアとしてかかわってくださる方々との輪を大切にしながら、市内での企業さん、農家さん、市民の方々の支援の輪を広げ、町ぐるみで子育てを応援する機運を高めていきたいです。

あそび広場の1日

A 風を切って走り回る子どもたち

21年11月21日の日曜日、お天気に恵まれ、ライスパークで1年2ヵ月ぶりに子ども食堂を開催することが出来ました。この間、ほぼ毎月、プチ・パントリーで汗を流し、ちょこっとずつ顔を合わせて来たスタッフの努力と我慢が実り(?)、待ちかねた子どもたちは思い切り手を振って来場し、風を切って走り回って、みんなと会える喜びを爆発させてくれました。

見守る大人たちもみんな笑顔。この日は県のレクリエーション協会から柿沼さん、佐々木さんのお二人が、工夫された目新しいゲーム遊具を運びこんで上手に指導してくれたこともあり、午前中の遊び時間があっという間に感じられるほど、楽しくすごしたのです。

調理スタッフも張り切りました。かまどと羽釜を使い薪で美味しく炊いた炊きこみご飯を自分でおにぎりにする企画に、とれたてほうれん草の胡麻和え、大根の浅漬けがぴったり合っただけで子どもたちは食欲も満開！愛情たっぷり細かく刻んでコトコト煮込んだ豚汁のお味も最高でした。離乳食も手掛けた調理のスタッフは、お替わりをすすめてまわりながら子どもたちとこやかに触れ合うことができ、ママたちからは「どうやって味付けしたの?」と聞かれたりして、これまた満足。こんなにも楽しい時間を、長らく持てなかったのだなあ…と誰もが感慨ひとしおでした。

また、近所の農家、斎藤敦子さんご夫妻が摘みだてのミカンを100個も届けてくれたのですが、みずみずしいミカンの味は抜群で、競い合うように4つも5つも食べる子たちもいて、お二人にはぜひ見てほしい光景でした。

この日びっくりしたのは、2時近くに閉会した後も、すっかり「自分の居場所」(?)と思っているのか、多くの子たちが帰らずに遊び続けていたことで、ママたちもその姿を眺めながら階段に座り込んでおしゃべりする姿が印象的でした。スタッフが片付けの荷物を運ぶのに、「〇〇くーん」と助けを求めると、周りにいた小さい子たちまでもバラバラと駆けつけてお手伝いしてくれたのも、素敵な出来事でした。

かくて、無事に大成功をおさめたあそびひろばでしたが、すすく広場を忘れずに待っていてくださったご家族皆さんと、準備から当日まで、骨を折ってくれたスタッフの皆さんとで、互いに感謝し合いたいです。(戸恒和夫)

B OKさんの感想 11/23 受

先日は久しぶりにすすくの皆さんと一緒に過ごすことが出来て、母子ともにとっても楽しい時間でした!!一緒に参加した友人家族もとてもよろこんでいて、また参加したいとのことです!いつもありがとうございます。

C バトンタッチされていくこと

ワクワクしながら子ども達が来るのを待ちました。1年2ヶ月ぶりの子どももいれば、それ以上会っていない

かった子ども達もいました。どの子どもびっくりする程成長していて感動の連発でした。その一人ひとりの成長を報告したいくらいですが、今回は一つだけ報告させていただきます。



長を報告したいくらいですが、今回は一つだけ報告させていただきます。

Oさんは2人の年子の娘さんを連れて、毎回のようになすすくに参加していました。すすくに通い始めた頃は、下の子は歩き始めたばかりだったように思います。なので、いつもおんぶと抱っこしながらの参加でした。私達スタッフは、遊びや食事の時などは必ずお手伝いをするようにしていました。特に食事時はとても大変で、目が離せませんでした。年子の子育ては本当に大変そうでした。でも、少しずつ少しずつ成長し、私達のお手伝い無くとも、どうにかすすく広場を楽しめるようになってきました。

そのOさんが今回は、2人のお友達を誘って参加して来ました。おんぶに抱っこだった年子の子供達は、すっかりお姉さんになっていて、上の子はもう直ぐ1年生になるようです。そのOさんが誘ってきた一人の友人は、5歳と4歳位の男の子に10ヶ月の赤ちゃんがいて、とても大変そうでした。

私はなるべく近くにいて声を掛けるようにし、食事の時はピッタリ隣に座ってお手伝いをしながら、みなさんの食事の様子を見守りました。その時の、Oさんの、友人や友人の子供達への気配り目配りが素晴らしく、何だかとても嬉しくなっていました。元々のOさんのお人柄もあると思いますが、かつてOさんも大変だった時、すすくに来ていろんな方達に助けて貰ったと思います。それを今度は、他の大変そうな人に返してあげている、そんな風に見えました。子育ては本当に大変です。その大変さを知っているOさん、そして、支えて貰える事でどんなに助かるかも知っているOさんです。もしかしら、すすく広場で過ごした時間の中で、Oさんは気付いてくれたのかな?と、勝手に思っていました。

私達すすくの子育て支援の活動が、こうやってさまざまな形で次へ次へと、バトンタッチされて行ったら良いなあと思いました。

すすくに通う方達を見ていると、Oさんのような方があっちにもこっちにもいるような気がします。すすくから、そんな素敵ママやパパが育っていったら良いなあと思いました。(2021/11/26 赤嶺菊枝)

右のバーコードから、すすく広場のホームページに行けます。

